

科目名	ものづくり実習 3							年度	2025
英語科目名	Fabrication Practice 3							学期	前期
学科・学年	建築学科 2 年次	必／選	必修	時間数	30	単位数	1	種別※	実習
担当教員	大澤 公仁		教員の 実務経験		あり	実務経験の 職種		建築設計	
【科目の目的】 ・ものづくりの授業として住宅に合う人体系家具のデザインを行う									
【科目の概要】 人体系の家具を作ることを目的とするが、設計課題とのつながりを考慮したものづくりを行う。									
【到達目標】 A. ものを計画するときの適切なデザインできている B. 設計課題との関連性がある									
【授業の注意点】 評価はルーブリックにもとづいて行い、指導教員等により講評会において評価を行う。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック 評価	レベル 3		レベル 2		レベル 1				
	優れている		ふつう		要努力				
到達目標 A	ものを計画するときの適切なデザインできている、機能的である		ものを計画するときの適切なデザインできている		ものを計画するときの適切なデザインができていない				
到達目標 B	設計課題との深い関連性がある		設計課題との関連性がある		設計課題との関連性がない				
【教科書】 配布資料による									
【参考資料】									
【成績の評価方法・評価基準】 成果品等で評価する									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									
科目名	ものづくり実習 3							年度	2025
英語表記	Fabrication Practice 3							学期	前期

回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	調査1	調査	住宅系家具のデザイン史を知る。	住宅系家具のデザイン史を知る事ができる		
2	調査2					
3	調査3			住宅系家具のデザイン史を知ることにより知見を広くできる		
4	調査4					
5	デザイン1	デザイン	適切な素材、構法を選定し実際にデザインを行う。	スケッチを通しデザインを創作する		
6	デザイン2					
7	デザイン3					
8	デザイン4					
9	デザイン5			模型用の図面を描く		
10	制作1	制作	部材を切り出す。	正確且つ、適切な大きさに切り出していく		
11	制作2					
12	制作3		仮組	部材を正確、丁寧に組み立てる		
13	制作4		本組			
14	制作5		塗装工程			
15	発表		講評を受ける	他者のデザインを知り自分のデザインの幅を広げる		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他
自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった
備考 等